

事業名

～広めよう地域教育協議会～ 故郷を美しく！安全な街に！

目 標

地域教育協議会の取り組みの広報と内容の充実

1. 取組の視点

地域で決める学校予算事業も2年目をむかえ、徐々に地域に事業の趣旨や内容が浸透しつつあります。しかし、まだそれは特定の組織や団体関係者が多く、地域全体に広がっているとは言い難いです。さまざまな機会を通じて広報活動を行い、認知度より高め支援体制を確立していきます。

また、組織的に支援活動を行うために人材バンクを設立し、ボランティアの確保と支援の充実に努めます。

中学校に設置されている地域本部室を有効に活用し、学校に於ける取り組みの拠点とすると同時に地域と学校・生徒との交流の場所とします。

2. 取組の概要

○環境整備事業

8月26日（金）伏見南小学校を皮切りに京西中学校・六条小学校・六条幼稚園、そして、10月11日（火）には伏見南幼稚園で環境美化作業を多



くのボランティアの参加を得て実施することができました。5校園の実施日や活動の目的を記載したチラシを作成し、校区の全戸に回覧したり各校園で保護者に配布したりして広報活動を行いました。また、自治会の掲示板も活用させていただきました。その結果、チラシを見てはじめて学校に訪れ、参加したという方もおられ広報活動の必要性と、地域の方々の温かい気持ちに触れることができました。

○各校園の取り組みを支援

幼稚園や小学校の昔遊びや地域とのふれあいの活動、中学校のボランティア清掃やオープンスクールなど様々な取り組みの支援を行うためボランティアとのコーディネートを中心に取り組みをすすめました。



○中学校に設置している地域本部室を積極的に利用。空き教室を地域の部屋と位置づけて4年になりますが、全体会を行う程度で日常的な利用はほとんどされていませんでした。今年、整理整頓しお茶なども出せるようにして、地域と生徒の打ち合わせの場所・コーディネーターの連絡場所・ポスターやチラシ等を作成する作業場所として大いに活用することができました。

3. 成果と課題

徐々にこれまでの活動が定着し、加えて新しい取り組みもすすめられるようになってきました。来年度は、地域の学校としてより位置づけられるように「学校と地域で創り上げる学校の取り組み」「地域と学校で創り上げる地域の取り組み」を創造し、また、地域を愛する子ども達を育成するために地域のすばらしさを学習（世界遺産学習を含め）する機会を多くもっていきます。

言うまでもなく、幼小中のたての繋がり、2つの小学校区とのよこの繋がりをもより強化することもすすめていきます。

事業名

きたえよう！身体 みがこう！こころ

目標

からだところを育て、共に支え合い、共に生きる学校づくり

1. 取組の視点

たくましい身体と豊かなこころを育て、共に支え合いお互いを大切にできる生徒を育成するため、なかま集団からお互いに学ぶことはもちろんのこと地域の方々から多くのことを学ぶ機会をつくりだします。昨年までの取り組みを基盤に据え、ひとつひとつの内容の充実を計ると共に、日常の取り組みを地域の方々に支援していただけるよう工夫します。また、支援していただける人材の確保と継続的な取り組みをすすめるため、人材バンクの設立を目指します。

2. 取組の概要

○京中ふれあい美化作業〔8月27日(土)〕 夏休み中に実施する校内美化作業。今年は、生徒・保護者・地域の方々、総勢約250名余りのボランティアが暑いさなか協力して校内の草引きや剪定など行い、2学期が気持ちよくスタートできるようにと美化作業に汗を流しました。



○第3回京中オープンスクール〔11月3日(祝)〕

中学校部会のコーディネーターを中心に、地域からゲストティーチャーを発掘し、様々な仕事、仕事のしんどさややりがい、強いては生き方について学ぶ。午後の部では、全盲のシンガーソングライターの堀内佳さんをお招きし、「いま、しあわせに生きるために」と題し熱い語りと爽やかな歌声を届けていただきました。生徒達の心に深く印象に残る1日になりました。

○体育大会や文化発表会の見回り隊

職員が行事に集中できるようにと体育大会や文化発表会のとき、2つの校門や校内を10人余りのボランティアで行事がスムーズに運営できるように巡視。職員から、「行事に集中することができ、常に生徒とともに活動することができた」と感謝のことが寄せられました。

○学習の支援

本年度、はじめて学習支援活動を実施。1・2年生の道徳「障害について学ぼう」で実際に福祉体験を経験。その活動の手助けを地域や保護者の方々をお願いし、長時間にわたり協力を得ました。その内容に関する専門知識をもった方もおられ積極的な指導をしていただきました。



3. 成果と課題

○学校が地域の拠点として、徐々に位置づけられ、日常的に地域の方々に来校いただいている状況が生まれてきた。また、地域本部室の利用も増え、地域の方々・地域の方々と生徒・コーディネーターの活動場所などとして有効に活用される場所になってきました。

○人材バンクの登録をお願いし、20名程の方に、それぞれの方にできる、様々な内容のボランティアとして登録していただきました。今後、その内容を生かしながら、どのように有効に活用していくかを検討し、実行・継続していくことが大切なことです。

事業名

「心豊かな六条っ子」

目 標

未来を見据え、今を心豊かに生きる子どもを目指す

1. 取組の視点

六条小学校の子ども達が心豊かに育つのに、「本が大好きになる」ことを大きなテーマとし、昨年度から地域で決める学校予算から、地域の方にも「本」に関する作業をボランティア活動として協力してもらっています。本年度も昨年度以上に地域の方との関わりを深めていこうと考えています。

また、昨年度から始めている「生き物が大好き」な子どもをたくさん育てる取組も大事にしていこうと考えました。昨年度は、獣医さんの話を聞いて「動物」のことを詳しく知る講演会を持ちましたが、本年度は「植物」のことを詳しく知り生き物を大好きになる取組を行おうと考えました。

地域からは、PTAやPTAのOB、万年青年クラブ、地元の植物に詳しい方等に来ていただき児童と良い出会いをさせようと考えました。



2. 取組の概要

「本が大好き六条っ子」を作ろうと、図書ボランティアと読み聞かせボランティアを募ったところ30名の方が登録していただきました。図書ボランティアの取組は、児童が「本が読みたい」「本を大切にする」気持ちを育むためにブックカバーを付けました。今年度は6回の図書ボランティア活動を持ちました。昨年度より参加しておられるボランティアの方は新しく来られたボランティアの方に指導するなどスムーズに運営できました。また、今年度は児童と直に触れ合える機会を設けようと図書委員会の児童と一緒にブッ

クカバーを付ける企画も3回実施しました。児童は、ブックカバーの付け方を教わったり学校生活の話をしたりして地域の方と楽しくつながりを深めました。

読み聞かせボランティアの方に来ていただき、読み聞かせを全クラス年度に2回（4日）行いました。どのクラスの子も達も、とても楽しく真剣に聴いていました。



「生き物大好き六条っ子」では、生き物を大切にする気持ちを養い優しい心を育ていこうと取り組みました。今年度は、地域に在住の植物についてとても詳しい元小学校の校長先生を招いて「植物を大好きになろう」というテーマでご講演をしていただきました。1年生から6年生までそれぞれ1時間みっちりお話をしていただきました。クイズも盛りだくさん出していただき子ども達の目は爛々と輝いていました。

3. 成果と課題

「本が大好き六条っ子」で購入しブックカバーを施した本を各教室に置くようにしています。子ども達は朝の読書の時間に利用したり、図書係の運営で貸し出しをしたり、雨の日の教室で積極的に本を読んでいます

「生き物大好き六条っ子」は子ども達も楽しみにしている取組です。今まで植物に興味のなかった児童も木や草花に目を向けるようになりました。これらの取組は、本校で大切な役割を担っています。

事業名

いきいきワクワク「育ち」のステージ

目 標

子ども達の育ちを学習、環境整備、安全の面から支援し共に歩む

1. 取組の視点

地域とともに歩む学校づくりと、児童の健全な成長を目指して取り組みました。地域に様々な協力を願い、学校だけではできない体験活動に取り組みました。また、ゲストティーチャーを招き、貴重な体験談を聞いたり、専門的な指導をうけたりして、子ども達の知識と体験を増やすことを目指しました。また、PTA、地域とともに児童の登下校時の安全確保と、学校の環境整備に努めました。これらは児童にとって安心して心豊かに学べる環境をつくることとなります。

2. 取組の概要

登下校における安全確保のための、立ち当番は年間を通して、保護者、地域、教職員が、児童の登下校時刻にあわせ計画的にポイントに立ち、見



守っています。

学校の環境整備については、地域のシルバー人材センターの方々と、PTA、職員、ボランティアが協力し、校内の草刈り（写真）を中心に、花壇の整備、植木の剪定、掃除など、環境整備に努めています。

11月には土曜参観の後、「ふれあいの日」をおこない、地域（写真）、PTAを中心に、児童は有意義な時間を過ごしました。また、地域が中心



になって年間5回の休日の時間に様々なイベントを企画してくださっています。映画会、ドッジボール大会、正月飾りづくり、とんどと児童の体験の幅を広げ、多くの方々と交わる催しとなっています。

創立以来続く干し柿づくりは、地域の方に柿を提供していただき行っている。これは、異年齢で、干し柿づくりを教え合い、他学年との交流や人間関係づくりになると共に、児童にとって貴重な体験活動になっています。また、講師を招き、職員やPTAも研修を行って知識の幅を広げた。児童には、様々な方面からのゲストティーチャーを招き、人権学習を初めとして、普段の授業の中では、聞けない話・できない体験をすることができました。

3. 成果と課題

地域の方々の協力と取組により、児童の安全は守られ、安心して児童は育っています。地域の方々による様々な体験の場の提供、学習への協力、ゲストティーチャーとしての関わりにより、児童は体験を深め、知識を深めています。このように多くの成果を上げることができました。今後、さらなる地域と学校・PTAの協力の体制づくりを目指したいです。

事業名

夢中になって遊び続ける環境の工夫

目標

夢中になって「知りたい！やってみたい！いいこと考えた！」と、試したり、工夫したり、挑戦したりする経験を豊かにする。

1. 取組の視点

夢中になって遊び続ける子どもとは、挑戦したり試したり工夫したりして、自ら学びをつなげていく姿と考えます。自ら学びをつなげていくことは生きる力をつける基となり、生活を豊かなものにしていくことにもつながります。自ら学びをつなげる子どもを育みたいと願い、子どもの豊かな体験が広がる環境の工夫をめざします。

2. 取組の概要

(1) エプロンやスカートを地域の人と作る。

棚やサークルを木工で作る。

・実施日 平成 23 年 9 月 27 日

平成 23 年 10 月 24 日

コーディネーターを中心に卒園児在園児のボランティアの方と一緒にエプロンとスカートを作りました。また、地域の方の協力を得て木工で棚やサークルを作るという園内や家庭ではできない実体験ができました。手作りの楽しさや地域の方と共に作る喜びを感じることが出来、子ども



たちは、手作りのエプロンとスカートを身につけ、棚やサークルを使って、豊かな遊びを行い、レストランごっこやままごと遊びを楽しみました。



(2) 大仏様に油を届ける。

・実施日 平成 24 年 1 月 16 日



全園児（100名）と参加希望する保護者 20 名・地域の方 5 名と一緒にバスに乗って国立博物館学芸部長西山厚先生の話の聞ききました。また、年長児が「大仏様のひみつ」の手作り紙芝居を披露しました。その後、東大寺大仏殿に行き、上司さんの話を聞き大仏様の台座にあげていただき、絞った菜の花の油を届け、歌を歌いました。

その後、子どもたちは、はぐくみセンターでもの作り体験とプラネタリウムを見ました。

3. 成果と課題

今年度からコーディネーターを中心に在園児の保護者や卒園された保護者の方のボランティアの組織として動き始めました。地域の方から、ボランティアの申し出があり人数も増えてきています。

多くのことにかかわっていただくことで子どもたちの体験が豊かになって夢中になって試したり、工夫したり、挑戦していく意欲が育ってきました。

更に得意分野でのボランティアの組織を広げていきたいです。

保護者や地域の方も一緒に参加していただき、このような取組が進められる中で、教育活動の内容を理解していただき「菜の花プロジェクト」が地域に定着していったと捉えています。

事業名

いきいき輝け！笑顔いっぱい

目標

地域の方など、いろいろな人やものとのかかわりを通して、心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる

1. 取組の視点

近年の少子化・核家族による生活様式の変化や社会的モラルの低下などから、幼児は入園するまで家庭内で過ごすことが多く、園児・保護者とも人とのかかわり方がぎこちなかったり、苦手だったりします。そこで、地域の方や近隣校園との触れ合いや、いろいろな感動体験が有意義になり、心豊かでいきいきと活動できるよう計画を立て実施してきました。

また、園児や地域の方などが“幼稚園って楽しいな”“行くのが楽しみ”と思えるような人的・物的環境を大切に取り組んできました。

2. 取組の概要

年間を通して、様々な年代の人（未就園児・保育園児・小中学生・民生委員・地域の方など）と計画的に触れ合ったり、交流したりできるようにしました。

当園は、地域環境が見えない奥まった場所にあります。いろいろな方が来園し、形式ばらずにかかわってくださるので、園児と来園された方の距離は近いです。お話ひろばや昔遊びひろば（ともに月1回）、子どもまつり・もちつき・こままわしなど家族以外の大人（民生委員や地域の方）の方の温かい眼差しや優しい声掛けなど、子どもたちは“無償の愛”をいただき、昔からある遊びや行事を楽しむことができました。



同じ校区の伏見保育園との交流会（年3回）は、教師間の連携を深め話し合うことで、今年は、新たに小学校でのドングリ拾いも合同で行うこと

ができました。回を重ねることで、進級後や就学後にまた会えることを楽しみにする声も聞かれるようになりました。

また、小学校との連携として、運動場で昼休みの時間を利用して一緒に遊び、子ども同士の交流を深められるよう実施をすることで、いろいろな学年の小学生と親しみを持ってかかわったり、進んで遊びを楽しんだりするようになってきました。小学生に誘われて手をつないで遊具まで移動したり、仕方を教わったり、譲ってもらったりして、思いやりの気持ちに触れ、就学への期待が高まったようです。



中学生との交流（ふれあい音楽会・職業体験）では、やさしく接してくれる、少し年の離れたお姉ちゃんと遊んだり、演奏を聴かせてもらったりすることで身近に感じ大きくなることに憧れをもったようです。

3. 成果と課題

いろいろな人とかかわり温かな心に触れ、喜びを味わうことで、思いやりの心や感謝の気持ちが持てるようになってきました。地域の方も「子どもたちはみんなかわいいね」「幼稚園は楽しいね」と言ってくさっています。

今後も、子どもたちが心豊かに成長するように来園者と計画や評価を話し合い、人的・物的環境を整えていくことを大切にしていきたいです。